

令和8年

療育相談員だより

1月



〒863-0043

天草市亀場町亀川1886番地2

天草圏域児童発達支援センター

電話: 23-7049 FAX: 22-4985

メール: hondo@amasha.jp

あけましておめでとうございます

本年も様々な情報をお届けしていきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

今月は、『くまもとハートウィークふれあいイベントin天草』『気になる言動(何度言っても、言うことを聞きません)』についての情報をお届けします。



○親の集い

- ・子育ての悩み、試してみて良かったことやお子さんの近況など情報交換の場です。
- ・相談には、ペアレント・メンターさんや療育相談員が個別の対応も行っています。



今月の『親の集い』は…

○日 時: 令和8年1月15日(木) 10:00~11:30

○場 所: 天草圏域児童発達支援センターすくすく園会議室(天草市社会福祉協議会本渡支所内)

12月5日(金)~7日(日)、ここらすにおいて『くまもとハートウィークふれあいイベントin天草』が開催されました。発達障がいの疑似体験ブースでは延べ175名の来場者がありました。

疑似体験された方の感想



視野の狭さからくる困難さの
体験コーナー

- 初めて参加しましたが、どのコーナーも入りやすい雰囲気で子ども達と一緒に楽しく学ぶことができました。子どもも周りを見たり助け合う気持ちをもってくれたように思います。(30歳代)
- 言葉でイメージすることの難しさを実感できました。(10歳代)
- 発達障がいについての本の紹介がされておりありがとうございます。毎年、このようなイベントが続いているといいです。障がい児を持つ家族として温かい場所が増えました。自宅に戻って夕食では今回のイベントの話が話題にあがり、参加できなかった高校生も関心をもって聞いてくれました。様々な障がいを持つ子どもや人が社会の中の一員として一緒に生きやすい社会にするための啓発の場所になるといいです。(40歳代)
- 以前に比べて本当に色々な視点でモノや考え方がすすんでいるなあと毎年感じます。なにも特別なことでもなく、その人を知りたいという思いから発想、考え、工夫が生まれるのではないかと思います。支援の皆様に感謝します。(50歳代)
- 普通にしていることが当たり前と思っていたが、なかなか難しかったです。(70歳代)
- 実際に体験することで障がいの人の生活上のしづらさが理解でき、このような経験を広げられるといいです。(60歳代)
- てぶくろをしたらむずかしかった(6歳)
- 子どもの視野について知ることができて良かった(20歳代)

書籍コーナー



何度も言っても、言うことを聞きません してほしくないことを繰り返します

お子さんに何度も言っても言うことを聞いてくれないとき、「ダメでしょ!」などと叱るだけでは望ましい行動は伝わりにくいことがあります。そういうときは(してほしくないことをしたときは)、どうしてほしいかを具体的に伝えてみましょう。

そして、お子さんが望ましい行動がとれたときは、すぐにほめることも大切です。そうすることにより、今行っていることが望ましいことなのだとわかりやすくなります。

ことばかけ 具体的に、望ましい言動を伝えましょう

「何回目?」と言って叱るとき、「同じことを繰り返してはいけません!」というメッセージが込められていると思います。同様に、「どうして同じことをするの?」と言うときは、「そんなことはしてはいけません!」という思いが込められています。

相手の言葉の真意をくみ取ることが苦手なお子さんは、自分が尋ねられたと思って素直に「〇回だよ」とか「同じことじゃない」と返答して、また怒られるかもしれません。

何が良くなかったのかよりも、どうすればよいのかを伝える必要があります。



叱るだけでは、「叱られたこと」だけが記憶に残りやすく、望ましい言動に結びつきません。短い言葉で具体的に伝えましょう。

理由を探る わざと困らせようとしているわけではありません

小さい頃から叱られ続けて大人になった人のなかには、自分に自信が持てず、自分のことを否定的に思い込んだりする人もいます。どのお子さんにも苦手なことはありますが、それはその子の一部であって、すべてではありません。素敵などころが必ずありますので、そのお子さんの良いところに注目して伸ばしていきましょう。



疲れているときは、お子さんの良いところを見つけてくなるものです。日頃のご自身のがんばりをほめて、休息もとりましょう。

理由を探る 注意が向くところがとてもせまいかもしれません

日々の生活では、一度に複数のことをしなければならないことがあります。例えば、会話もそのひとつです。”相手の話を聞いて”、“それを理解し”、“次に自分が話すことを考えて”、“表情を添えながら”、“話します”。しかし、一度に複数のことをするのが苦手なお子さんの場合は、お家の人に叱られたときに、言われたことを理解して、それを自分がしたことと結びつけて「反省する」ということがうまくできないことがあります。できるだけ時間をおかずに、ひとつひとつ順番に、わかりやすく短い言葉で望ましいことを具体的に伝えることが大切です。

どのように理解しているか、考えてみましょう

共通点を見つけることが苦手だったり、全体に目が届きにくかったりするお子さんの場合は、少しの違いが大きな違いに感じられることがあります。逆に、違いを見つけることが苦手なお子さんもいます。例えば、お家の壁に落書きすることと、自由帳に絵を描くことを「同じこと」と考えているお子さんがいるかもしれません。目の前のそのお子さんが、物事をどのように理解しているのか、その気持ちに少しだけ近づいてみましょう。

